

5月のさわやかな風とともに…

風薫る 5 月。常にさわやかな風が吹き抜ける西吉野小学校をめざして…。(全校朝会でのお話から)

〇いじめは、絶対にしない・させない・許さない！



「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、本校 6 年生児童全員が、「そう思う」と答えています。これは大変素晴らしいことです。6 年生が、これまでの小学校生活で培ってきた人権意識・人権感覚の一つの結晶と言えるでしょう。

ある人が言いました。「それは、悪ふざけやただの遊びではない。自分がされたら嫌なことをするのは、相手を下に見ているからや。それが差別や！ 相手の心から血が流れているのを感じる心を、君たちはもて！」

いじめは、人を差別する心から生まれます。いじめ＝差別。だから人として絶対にしてはいけないことなのです。「いじめは、絶対にしない・させない・許さない」6 年生の思いを、西吉野小学校全員の思いとして共有し、誰もがさわやかな気持ちで毎日過ごせる学校を、一人一人の手で築いていきましょう。

〇あいさつ日本一の学校をめざして…



朝、「ありがとうございます」と運転手さんにあいさつをしながらスクールバスを降りてくる児童がいます。先生の顔を見るなり、「おはようございます」と元気にあいさつをする児童がいます。その声を聞くたびに、「おおっ、気持ちがいい挨拶やなあ。」「おおっ、元気がいいなあ。」と、こっちまで気持ちよくなったり、新たな元気をもらったりします。

ある人が言いました。「人に言われてから気付いたように言葉を返すのは、あいさつではなく返事だ。自分から進んで！ 元気よく！ これがあいさつの基本だ！」

今、子どもたちには自分から進んで元気よくあいさつする習慣が身に付きつつあります。この機会を逃さず、家庭・地域・学校の協働の下、『誰にでも当たり前のようにさわやかなあいさつができる』西吉野小学校児童をしっかり育てていきましょう。そして、気持ちのよいあいさつ日本一の学校をめざしましょう。



〇人の役に立つ人間に…

ある人が言いました。「人には、4 つの幸せ（喜び）がある。『褒められる幸せ』『愛される幸せ』『人の役に立つ幸せ』『人から必要とされる幸せ』だ。」

この 4 つの幸せの中で一つだけ違うものは…？ それは、『人の役に立つ幸せ』です。人からもらう幸せではなく、自分からつかみにいける幸せだからです。しかも、人の役に立つことをすれば後の 3 つの幸せが自然とついてくるのです。「人として生まれてきたからには、人の役に立つ人間として生きてみたい。」と、さわやかな笑顔で語れる西吉野小学校児童であってほしいと思います。